

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4570600306		
法人名	医療法人向洋会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	宮崎県日向市大字財光寺1131-24 (電話) 0982-55-8048		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年8月22日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(平成20年7月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤12人, 非常勤0人, 常勤換算4.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建て	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年7月26日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	10	要介護2	6		
要介護3	0	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	1		
年齢	平均 83.9歳	最低	76歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人成和会和田病院、堀齒科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームから見える景色は、塩見川が緩やかに海に注ぐ河口と、堤防周辺の植栽が植物園を思わせるように隣接している。四季の変化を楽しみながら散歩するには絶好の環境であるが、単独行動による水難事故等の対策に門扉が施錠されている。玄関から門扉までの距離があり、館内からの閉塞感は少ないが、外から気軽に訪問するにはちゅうちょしてしまう感じである。家族やホームの職員にとっては、認知症対応の介護老人保健施設や専門病院が敷地内にある心強さと安心感がうかがえる。利用者の方々はADL(日常生活動作)の低下が少ないことが特徴であり、食材の買い物で毎日のように外出支援が行なわれ、利用者の身体の不活発化が少ない。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった項目の約款や重要事項の訂正及び金銭管理の改善が図られている。課題であるホームの多機能性や地域密着型に対応するため、ホームだよりの編集案や地区公民館加入について、職員間でより具体的な方向に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解されている。評価結果は職員だけでなく、運営推進会議に提案され見直しなどが検討されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の中で、地域密着型や地域との連携に対して、区長や行政担当者から期待される提言があり、職員も「現運営推進委員会のメンバーの時に基礎づくりをしたい。」との意気込みがうかがえる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議は全家族も構成員であることや、ホームの行事への家族参加状況から、家族会発足は容易な現状にあると思われる。個々の家族の意見等が家族会としての意見となると運営等にも反映されやすくなる。法人内にはPSW(精神保健福祉士)や他職種も豊富であり、活用を図りながら家族会を発足させ、当ホームだけではなく他のホームのモデルとしても実現されることを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の老人会や自治公民館で実施されている「いきいきサロン」への参加を、目下、区長等に依頼している。ホームだよりの地域版も検討中である。法人が実施する納涼祭には地域住民が多数参加されるが、ホームへの積極的な交流には至っていない。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭生活に近い共同生活は「自立を促す介護」を目標として、個人のペースに合わせたサービスが提供されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を唱和し共有している。「食」を楽しみ・生きがいの一つとして位置づけ、支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会や自治公民館で実施されている「いきいきサロン」への参加を、目下、区長等に依頼している。ホームだよりの地域版も検討中である。法人が実施する納涼祭には地域住民が多数参加されるが、ホームへの積極的な交流には至っていない。	○	法人の主施設が地域に以前からある病院であるだけに、ホームだけが公民館活動に参加する目的を地域住民に理解させる困難さが考えられる。区長や民生委員の他、若い層をキーパーソンとして、行政のバックアップを求めることも検討していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解されている。評価結果は職員だけでなく、運営推進会議に提出され見直しなどが検討されている。		

宮崎県日向市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月ごとに開催され、外部評価で課題となった項目は、委員の方より助言等をいただいている。公民館活動への参加に向けて、区長や民生委員が行動を開始されたところである。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は運営推進会議に出席し、ホームが希望する公民館事業や老人会活動に対し、助言や指導が行われている。	○	行政の担当者に、他のホームの共通性や当ホームの個別性を理解させることは必要である。担当者の交代で停滞することがないように、相談などを通して連携が日常的になることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料を原則直接納付にしたり、ホームだよりの発行、運営推進会議への出席などが、家族との話し合いや報告の機会になっている。金銭管理（こづかい帳）の確認がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には、相談担当者はホームだけになっているが、主たる相談窓口は法人内の老人保健施設となっている。特に、入居前の面接は併設施設で行われ、毎月実施される委員会で検討され、ホーム運営に反映されるシステムがある。	○	苦情や不満の相談窓口は、施設側だけでなく、行政や第三者機関があることも明示していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正規職員の短期間の異動は行われていないが、正規職員と派遣職員がほぼ同数の勤務形態である。新規採用者は隣接の老人保健施設で3週間の研修を受けるが、その間にホームに顔をだし、なじみの関係作りに努めている。		

宮崎県日向市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に認知症専門病院があり、院内研修には派遣職員も参加することは可能である。既研修受講内容では管理者はリーダー研修のように段階に応じた外部研修が必要であるが、計画的な研修参加には至っていない。	○	職員全体の人材育成は必要である。介護職員であっても窒息や転倒などの緊急対応ができるよう、看護師による研修等を法人の機能を発揮して、計画的に実施されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のホームとの交流が定期的に行われ、勉強会や意見交換の結果を、サービスの質の向上に取り入れる姿勢がうかがえる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用希望者への面接は併設施設の担当が行っている。利用希望者や内定者は、希望に応じて1～3日間の事前体験として、家族も含めて昼間の通所で食事を共にし、納得をされれば利用開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人ごとの能力を引き出し役割を持たせ、一緒に過ごすことができている。日々の家事も利用者が率先して行ったり、漬物などの保存食、行事食、おはぎや団子づくりは職員が学ぶことが多く、いきいきと過ごされている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しかけ、働きかけがスムーズで本人の意向や希望が把握されている。利用者も聞き入れてくれることや受け入れてもらえることを実感しているようで、コミュニケーションが良好である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	特に初回の利用者に対しては、事前体験時から併設施設の担当者を交えた介護計画が作成されている。アセスメントはセンター方式を活用し、カンファレンスが行われ介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとにモニタリングされ、計画及び実施が評価されている。随時、見直しが必要な場合は、その都度カンファレンスが行われ介護計画が見直しされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族に対しては通所体験や来訪家族と一緒に食事をとられたり、宿泊が行われている。地域に対しては介護予防認知症対応型共同生活介護事業も含め、まだ機能が十分生かされていない。	○	法人内施設と共同した「認知症介護教室」など、利用者の家族への対応を工夫すれば、地域に開かれたホームになると思われるので実現されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は本人や家族の希望が尊重されている。現在の利用者は、認知症は法人内病院が主治医となっているが、合併症があり他のかかりつけ医の治療も受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの終末ケアの取り組みはされていない。重度化時は、家族、主治医、ケースワーカー等で家族の希望を尊重し、症状基準に対応した法人の病院や施設への住み替えや退居となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけは、親しい関係であつても人格を尊重するものであるよう、排泄や入浴の誘導時の対応もプライバシーの配慮がされている。個人情報の利用目的について、具体的に理解しやすく表現されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を傾聴しつつ、個々のペースにゆったりと合わせたケアが行われている。		

宮崎県日向市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームのポリシーは「食」にあり、利用者の希望する献立の買い物への外出や、外出先での献立変更も柔軟に行われている。調理の下ごしらえから味付け、片づけの一連の過程を個人のペースで分担しながら、生き生きと参加され楽しい雰囲気である。訪問した家族も気軽に、一緒に食事に参加できる取り組みは評価できる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	就寝前の入浴が習慣化されている利用者に、昼間の入浴になることを理解してもらいトラブルは見られない。入浴拒否の利用者には主治医の協力を得て入浴が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の野菜を植えたり、味噌、保存食や漬物、彼岸のおはぎづくり等に、経験を発揮され、張り合いを感じている利用者が多いことが特徴的である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材購入の外出は、季節感、価格や商品への関心、人との交流を通した認知症の進行防止対策を目的に行われている。花見や温泉、レストラン利用などの年間計画が立てられている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	水難事故と階段の転倒事故回避の目的で、門扉と2階への出は入り部分が施錠されているが、職員や家族が同伴できる時は希望に沿うようにされている。玄関は開放されており門扉までのアプローチには植栽や広さがあり、内側からの閉塞感は感じられない。	○	門扉のインターホンボックスは堅苦しさがあるので、気軽に訪問できるような雰囲気への工夫が望まれる。

宮崎県日向市 グループホームあけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回の避難訓練が行なわれ、隣接施設の指定避難所までは5分を要することが把握されている。	○	立地上、台風や地震による津波、高潮など、災害の種別や発生時間帯を変えた訓練の必要性和、地区消防団や隣接企業の応援体制が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	標準食や糖尿病食について、法人の管理栄養士の摂取量指導を受け、利用者の好みを取り入れた献立と口腔機能に応じた調理がされている。手洗いはペーパータオルが使用され、衛生面も留意されている。	○	食事制限が必要な利用者の食事チェックを病状に照らし合わせて、管理栄養士に定期的に実施してもらうことを検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部の騒音はほとんど無い環境である。玄関、居間、廊下などすべての空間は広く、畳の居間やゆったり過ごせるよう廊下にもソファが置かれている。ベランダに出て食事や喫茶をすることもできる。特に台所は、L字型に2台のシンクが設置され、6人位が利用しても十分な広さがあり、職員と利用者が共に調理されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族が泊まっても、ベッドサイドにポータブルトイレを置いても十分な広さであった。好みでベッドの位置を変え、使いやすく工夫されていた。		

※  は、重点項目。